



歐陽詢(唐)の九成宮醴泉銘から字を集めて、
 倣書(背臨)で書いています。九成宮醴泉銘は
 「楷書の極則」と評されています。字形は端正、
 タテ長、厳格で、切れ味鋭い筆法、背勢で
 直線的である。全体に、上に狭く、下に広い
 特徴がある。

新禽争うて響を啾す
 しんきんあらそ ひびき ろう
 春日、小鳥が争うて響を啾すること。

(蕭 瑱)